

第2章 研究開発の経緯について

1 研究開発の経緯

S S Hの指定を受け2年目となった本年度は、授業の一環として取り組んでいる「S S 科学」について、1年生は「S S 科学」として科学の基礎的な講義や実験実習を7つの項目で行うこととし、2年生は「S S 科学」として昨年からの課題研究を続行することとした。昨年は、1年生の後期から課題研究に取り組んだが、1年生の後期からではまだ基礎的知識や技能が不足しており無理があった。今年からは総合科学科生徒全員に対し、「S S 科学」は「1年生で基礎講座」、「S S 科学」は「2年生で課題研究」、「S S 科学」は3年生で希望者が選択して「さらに研究を深化させる」という形を定着させていくこととした。



2年生の「S S 科学」での課題研究では、9月の学園祭で2年生総合科学科全員が外来者や1年生を対象にポスター発表を行った。またこの時に何人かの1年生のグループもポスター発表を行った。年度末の2月には、研究を継続した2年生を中心にS S H生徒発表会を実施した。



全員参加の取り組み、希望者参加の取り組みはそれ程昨年と変わりはないが、積極的に外部の企画に参加し始めていること、課題研究の成果がでてきているため発表の機会が増え外部からの評価も得られ始めている。



また、課外活動では、1年から3年までS S クラブ員（S S ゼミ）として課題研究の一部に参加できることとした。実際、物理・パラボリックフライトグループなどは、1年生・2年生が協力して活動し、1・2年生の連携も生まれた。

3年には、選択科目「S S 科学」を設定し、8月の全国大会に向けた課題研究総仕上げの時間とすることとした。ただし、今年度は、開講しないこととした。

